

2005年11月21日

日本学術会議 会長 黒川 清 殿
日本医学会 会長 高久 史麿 殿

薬害オンブズパーソン会議

代表 鈴木 利 廣

〒162-0022 東京都新宿区新宿1-14-4 AMビル4 階

電話03(3350)0607 FAX03(5363)7080

e-mail yakugai@t3.rim.or.jp

URL <http://www.yakugai.gr.jp>

拝啓

貴下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私達、薬害オンブズパーソン会議は、薬害防止と医薬品使用の適正化を目的として活動している民間の医療および医薬品の監視機関です。当会議の活動については、ホームページ (<http://www.yakugai.gr.jp>) でご覧いただけます。

当会議は、高脂血症治療におけるコレステロール低下剤の使用について、その過剰使用等の問題を検討し、2001年11月には「コレステロールが高いと言われたらーコレステロール低下剤の大疑問」として公開会議を開催するなど、問題提起を行ってまいりました。また、NPO医薬ビジランスセンターおよび医薬品・治療研究会からは、2002年1月、「日本動脈硬化学会『動脈硬化性疾患の予防と治療のためのガイドライン(案)』に対する意見と質問」が日本動脈硬化学会あて提出され、高脂血症診断基準値を220mg/dL以上と設定していることに対する問題提起等がおこなわれました。

ガイドライン(案)検討過程において2001年当初には240mg/dL以上に引き上げるという案が学会内部から出されながらも、最終的には撤回される結果に終わりました。その後、日本動脈硬化学会からは、1997年の「高脂血症診療ガイドライン」を改訂する形で、2002年9月に「動脈硬化性疾患診療ガイドライン2002年版」が発表されました。また2004年7月には同学会から「高脂血症治療ガイド」も発刊されています。これらの中では、高脂血症診断基準値を220mg/dL以上と設定している問題点は残されたままとりました。

当会議は、日本動脈硬化学会による高脂血症診断基準値や脂質管理目標値の設定には問題があると考え、2004年6月日本動脈硬化学会に対し「動脈硬化性疾患診療ガイド

ライン 2002年版」に関する公開質問書を提出、これに対する回答書を2004年7月に受け取りました。これを受けて当会議は同年10月に再質問および再回答要望書を提出、学会からの回答書を受けて後さらに、「再質問書へのご回答について」とする文書を2005年10月、送付いたしました。これらの文書(同封)は当会議ホームページの中(URL <http://www.yakugai.gr.jp/inve/fileview.php?id=52>)でもご覧いただけます。

以上の経緯を経て当会議としては、日本動脈硬化学会による「動脈硬化性疾患診療ガイドライン2002年版」における高脂血症診断基準値および脂質管理目標値の設定、また、現在の日本におけるコレステロール低下剤の使用状況については依然として大きな問題が存在していると認識しております。そして、近年注目されているメタボリックシンドロームの考え方にも代表されるように、肥満や糖尿病、高血圧、高脂血症、また脳血管疾患や心血管疾患、癌など生活習慣病の予防と治療については、動脈硬化性疾患としてのみならず、総合的な疾患としての取り組みが求められている学会横断的テーマであるといえます。また社会的関心も高い分野でもあります。このような各分野合同での取り組みが求められている問題については、関係学会および医療関係者、ジャーナリスト、患者等、関心のある方々を広く集め、たとえば医学会総会等の場において公開会議をおこない、十分な議論をする必要があると考えております。

貴会議および貴学会におかれましては、ぜひこのような公開会議の場を設定していただきたく、ご検討くださいますようお願い申し上げます。

敬具